

すずらん

1995 NO. 2

- ・これからのお祭りサービスについて
- ・エリア報告（施設部門・生活支援部門）
- ・委員会だより
- ・ボエム
- ・みんなの声
- ・父母会活動について

発行日／ 1996年3月10日 社会福祉法人 すずらんの会

理事長 大長義信

神奈川県相模原市麻溝台743 / 0427-77-1790

これからのお仕事について すずらん会理事 大長 昭子

国際障害者年に提唱された障害者の社会への「完全参加と平等」の理念は、今では多くの人の理解が得られるところまで浸透してきました。障害者福祉に対する考え方は、その後も社会の構造変化などと共に大きく変わろうとしています。北欧やアメリカにおいては「施設から地域へ」の方向転換が極めて明確に打ち出され、着々とその方向に動き出しています。私達も、この様な世界的な福祉サービスの動向に目を向けながら、これからの在り方を考えいかなければなりません。神奈川県が昨年に発表した第二次障害福祉長期行動計画の基本理念に唱われているように、障害者自身の主体性と自立性を確保し、完全な選択権を保障することがこれから最も望まれる在り方だと言えると思います。親や援助者の論理が先に立って来たのが今迄の在り方ではなかったでしょうか。家族と共に暮らしたいと願うのは人間誰れでも同じであり、障害を持った人達にとってそれが変わることはありません。施設に於ける支えられる福祉サービスから、在宅での選ぶ福祉サービスへの転換は人としての基本的な願望に沿ったものであると言えます。日本でもやがてこの方向が模索され、在宅をベースとしたサービスの在り方が真剣に議論され、実施に移されて行くことになるでしょう。

地域福祉サービスには、この様な在宅福祉サービスの他に、まだまだ施設福祉サービスの存在が大きいのが現状ですが、施設サービスの在り方も変わっていく必要に迫られています。つまり施設が今迄のような社会の中での孤立化や特殊性から脱皮し、地域との垣根を取り払って同化していくことが必要なのです。障害者に十分なそして様々な情報が提供され、その中から彼等自身が自分達の進む方向を選択出来るような環境を整えて行くことも忘れてはいけません。親や保護者の意志や都合で障害者のすすむべき方向が決められるべきではありません。障害者自身の意志や願望をていねいにくみ取り、それに沿ったサービスが出来るような仕組みを、援護者や福祉にたずさわる私達が考えいかなければならぬことではないでしょうか。理念としての「完全参加と平等」は、その実現に向けて動き出しています。



スリア報告

ワークショップ・フレンド

今年度はより利用者一人ひとりのニーズに合わせた作業の提供や作業班の構成をはかり、3班から4班体制へと移行しました。それともない、現在11社（昨年は6社）から仕事をいただいています。納期の重なりなど大変なこともありますが、“不良を出さず納期を厳守”を基本に、利用者・職員ともにとりくんでいます。仕事をするだけではなく、作業を通じ必要な報告や意志表示などができるようになることも、めざしています。行事として8月に高校生ボランティア6名を迎え、バーベキューを楽しみました。また秋の旅行は、利用者の希望で初めて作業班ごとで行ないました。プランニングには、各班の実行委員が大いに活躍しました。数少ない行事ではありますが、利用者の声を反映させたものにしていきたいと考えています。

ワークショップ・SUN

テープ班A・B、パンポン、ヘルスケアと4つのエリアに分かれて、それぞれの包装作業や検品作業・ラベル貼りなど、毎日違った種類の製品と奮闘しています。仕事熱心な人が多く、朝9時前には指示書を出して、すぐに作業にとりかかる態勢をとっています。どの部所も一つも手ぬきは出来ず、次から次へと流れ作業が続きます。また、報告や言葉づかいについても正しくできるように気をつけています。額に汗をにじませながら重いテープを下す人、マーキングに力が入りすぎて手が痛くなつたと訴える人、様々です。社会に出ればもっと厳しい現実が待っています。生活面や精神面の自立も計っていきます。

来年度にむけて・その1

9月より、由野台にある久保寺製作所で実習を始めさせていただき、現在ワークショップ・フレンドの利用者と職員で通っています。当初、場所や社員の方々との関わりという環境と利用者に適した仕事があるのかという作業面の両面で心配しました。が、会社總ぐるみで温かく迎えていただくとともに、微々細々にわたる御配慮をいただいている。又、一定した作業と併行して多種の作業も用意されているため、利用者の適性を見ながら配置されている状況です。利用者個々の経験とともに職員としても、企業との関わり方や仕事の進め方などを習得していく場となるよう、企業と連携を取りながら進めていきます。

今後は企業内作業所として、会社の方と一緒に働く、就労へのステップの場と考えています。

来年度にむけて・その2

自然とふれあうのが大好きな人たちが集まつてフレンドの隣りで畠をはじめています。昨年の夏は猛暑とたたかいで草むしりをしましたが、その甲斐あって秋にはさつま芋の大収穫。すずらんの家でスイートポテトに加工されたり、大学芋のデザートになりました。



冬の初めには、白菜が山のようにとれ畠にし好評でした。今年の4月から本格的にスタートする予定です。作物を育てる喜びを共有しませんか、畠大好き人間、この指とまれ！？

去年より今年、昨日より今日…何とか進歩がみられるようになってきました。平成6年10月よりお世話になっている三協株式会社から、夏以降新しくシートベルトの仕事をたくさんいただきました。フレンドやすずらんの家にも協力してもらい、何とか軌道にのってきたところです。当初はみんなにどれだけできるか心配しましたが、利用者のパワーは思った以上で“やればできる”をまわにさせてくれました。昼食を近くのセブンイレブンに買いに行くこと（通称買い弁）も少しずつ身についてきています。とにかく自分でやる、そのつみ重ねが自信となっていくのだと改めて感じています。

～新製品紹介～

マーブリング和紙のレターセット
250円

久しぶりにあの人手紙を書いてみませんか…

タートル

すずらんの家

徐々に製菓班の輪がひろがり、すずらんの家は今、お菓子作り一色になりました。ニューフェイスのチーズビスケット、ラムレーズンクッキーや小倉ケーキなどが加わってレパートリーが広がっています。

お陰様で、老人ホームや児童クラブ数ヶ所への納品先も増えました。

製造販売を車に喻えると、両輪とも調子良く回っている時と、そうでない時があります。安全運転するために、いま一層の味の開発と、更なる販路を求めています。

…さればござる…

紙面をお借りしてお願いの儀がございます。三時のおやつに（エッ文明堂？）贈答用に、はたまたお店において下さる方、皆様方よりの吉報をお待ちしております。

花 日記

周りの人々に支えられて3年がたとうとしています。利用者はその間にそれぞれの目的に向かって3名が花暖から他へ、又3名の新しい仲間を迎えるました。

仕事は主に下請け作業で3社から仕事をいただいていますが、4月からは「ショッパー」（東京新聞の週刊無料情報誌）配布の仕事もはじめました。外へ出て体を動かし「ショッパーです」と声を出して頑張っています。「ご苦労様」と声を掛けて下さる人も増え、夏の暑さや冬の寒さは大変ですが、やりがいを感じています。

同じく4月から始めた昼食調理では当番の利用者1名（職員1名）が献立を立て買物も担当して全員の昼食を楽しく作っています。

自主製品の和紙によるコースターも時間をあまり取る事が出来ていませんが、いつか大きくふくらませていきたいと思っています。

会社で働きたいと思っている人たちの手伝いや、もう就職して会社で働いている人たちの悩みや困っている事などの相談にのったりしています。また会社の方からも話をきいて、安心して働くようにお手伝いしています。

今年度は、より皆さんの要求や性格にあった会社を探すために、会社に向けたアンケート調査を行いました。アンケートの結果から、会社の方の考え方や今どういう人材を求めるか詳しく調べ、少しでも働きたいと思っている人たちに合った会社を紹介できればと努力しています。

就職したいと思っている人たちも、日頃の仕事を正確に早くできるように頑張って下さい。ただし、いくら仕事ができるも、それだけでは就職できません。きちんとした挨拶、報告や日頃の生活態度もとても重要です。

皆さんも頑張って下さい。

いろいろな理由で社会参加できず、家の中にいる方たちの要求や必要に合わせたサービスを提供しています。

例えば、仕事はしたいけど家から出たくないという方へ、内職の仕事を届けたり手伝つたりしています。また、就職はしたいけれど今までずっと家にいて勉強をしなかったので、ちゃんと勉強したいという方と一緒に勉強をしています。その方は現在就職する事ができます。

その他にも、野球の好きな方とはグランドに行って一緒に野球をしています。

このように、いろいろな方々のいろいろな好きな事したい事などをきっかけに、少しずつでも社会参加していけるようにお手伝いできればと思っています。

フレンドリーサービス

駅に近く仕事場や作業所に行くにも交通の便が良いので利用したいという希望者が多い生活ホームです。

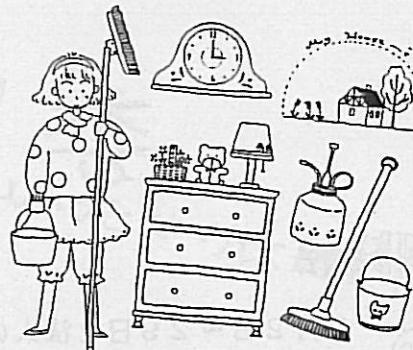
それそれが順に帰宅して来ると、まず自分の話を聞いてほしいと一日の出来事などを一生懸命に話すためそれは大変なさわぎですが、生き生きととしても楽しそうです。最近では自分なりのメニューを考えながら交替で食事作りをするので、料理の自信もついてきました。又共同で使用する部屋も進んで当番表を作成し、生活ホームをきれいに大切に使用しようとする気持ちが持てる様になりました。各自の部屋はそれぞれの個性でコーディネートされ、自分なりの憩いの場所になっています。クラシックから演歌まで幅広い音楽も楽しめる個性豊かな生活ホームですが、よかつたら一度遊びに来て下さい。みんなで両手を広げ歓迎致します。

リリーハイム

お花がいつもきれいに咲いていて、女性ばかりの大変にきやかな生活ホームです。

夜は、世話人さんの援助をお願いしていますが、朝はしっかりと自立が出来て自分達で頑張っています。利用者の話によれば食事を作る人、洗濯をする人、窓をあける人、それぞれ一人ひとりが責任を持っているようです。

仕事や作業所から帰ってから、あれやこれやと買物を楽しめます。食事作りやお掃除は得意中の得意、工夫しながら美味しいものを上手に作って食べさせてくれます。夜はお茶会がありお菓子を食べながら楽しい話が一杯！またCDを聴いたり手芸を楽しんだりテレビを見たりと、自分達の生活も大切にしています。今日は友達と一緒にショッピングを楽しんだりコンサートに出かけたりして、交流も深めています。



ヘリピングハンズ

心身に障害を持っている方をお預かりする事により、介護者や御家族が生活にゆとりを持って過ごせる様、手助けができたら、との思いで今年度新規に開設した事業です。助成金を受けていない為、赤字覚悟の出発となりましたが、他市の方も受け入れられるというメリットがあり、現在町田市、座間市の方にも利用していただいている。又、相模原養護学校、座間養護学校の皆さん、タートル、すずらんの家の利用もあります。日々の生活をゆったりと過ごせる場所、学校や作業所から家庭へ帰って来たように感じられる場所になれば、と考えています。一緒に散歩をしたりお話をしたり、時には手先の作業を少し取り入れ、その資金を手におやつを買ったりなど、生活に変化を持たせながらゆっくりのんびり利用者の個性に合わせながら過ごしています。

現在の利用は一日平均3~4名ですが、より多くの方に利用していただければと皆さんのお越しをお待ちしています。

来年度にむけて・その3

すずらんの家のななめむかいに、ピンク色の2階建てアパートがあります。このたび大家さんの協力を得て4戸すべてをお借りでき、「パークハウス」という3つ目の生活ホームを計画しています。今までより更に自立に近づく生活ホームとして、入居希望が相ついでいます。

「父母会活動について」

父母会会長 白沢 熟

平素は父母会に対し、格別のご厚意と深いご理解を頂き、感謝の念に堪えません。お陰様で本会も知的・身体障害をもつ子供の保護者組織として、地域や関係各位のご指導を仰ぎながら現在の組織形態に至っております。その間の先輩諸兄のご苦労を拝聴するにつけ、本当に頭の下がる思いです。

各種事業を通して会員相互の親睦を計り、子供達の積極的社会参加への助勢の一端を担えることを目的に、生意気な表現が許されるならば、社会への啓蒙活動を展開中です。具体的には、相模原市並びに障害児者福祉団体連絡協議会（連協）等主催のイベントへの参加、会員対象の勉強会や施設見学会、地域の皆さんとのコミュニケーションの形成等々、「参加と行動」をキーワードに活動をしております。月並みですが、社会生活では三つの「心」が大切といわれます。一つは、こういうことが出来ればいいなアと発想する心（発心）。よしそれを実行しようと決める心（決心）が二つ目。そして一番重要な三つ目の心が、いかにそのことを長く続けられるかと云う継続心、だそうです。父母会もそうした意図で、毎年同じことの繰り返しから一歩でも前進しようと願って、今年度より内規ではあります、役員の半数交替制度を導入致しました。等しく役員を経験して頂くことと同時

に、限られた予算の中で活動の効率化を推進する意味あいも込められています。

さて、今後の活動の方向性ですが、格好良くロマンを言えば、利用者が退会後も、保護者はボランティアとして残留する。専門部制を採用した機構改革を行ない、キメ細かな目線の誤らない活動。そして一団体としてその活動実績が広く認知されればこれに勝るものはありません。が、それはあくまでロマンとしましょう。それ以前に今一度現状を冷静に直視する必要があります。規模の拡大は大いに歓迎すべきですが、会員数が100名を超えた現在悩みが無い訳ではありません。残念ながら活動への参加者が固定化されつつあることです。「一人が皆んなの為に、みんなが一人の為に」の合言葉をもう一度相互確認することがスタートラインです。

まずは会員の自覚を促しつつ、健常者と障害児者とのふれあう機会を数多く設けながら、行政及び法人とのパイプ役を務められればと願望しています。それがひいては子供達的一般就労のチャンスに結びついていくものと確信するからです。法人職員の皆々様、連協を始めとする関係諸団体各位に重ねて感謝申しあげると共に、本会の健全なる発展・育成のために、更なるご高配を願わずにはいられません。

絵画クラブの宮城恵沢さんの作品です。

表紙について 5月のクラブ活動の折、県立相模原公園で、シンボルのグリーン・タワーを写生したものを使わせてもらいました。

編集 後記 今のご時世… ワープロもできない私。フレンドのコンピューター班には、大変お世話になりました。